

⑩ 【きそっこの会】 (木曾町) ～信州子どもカフェの事例～

1 実施内容

名称	開催場所	開催日	開催時間
きそっこの会	木曾郡民会館 (木曾町)	毎週水曜日	13時～18時
内容	費用	団体名(担当)	電話番号(問い合わせ先)
対象:小中学生 学習支援(食事支援)	無料	木曾郡ひとり親福祉会 (きそっこの会:田代)	090-3440-6102 Eメール: codomo.net@kt.kiso.ne.jp

2 始めたきっかけ

ひとり親福祉会を立ち上げた際、学習支援や食事提供を計画
・児童生徒の学習意欲の向上、相談による精神の安定を図る
食事支援による体調管理と生活リズムを図ることを目的とした

3 実施体制

実施主体:きそっこの会+教員のOB8名
サポート:高校生・主婦・学童指導員

⑩ 【きそっこの会】 (木曾町) ～信州子どもカフェの事例～

4 特徴

宿題を持って参加する学習支援と食事提供(無料)
・ひとり親だけでなく、支援が必要な家庭を受け入れている
学習支援:マンツーマン指導で、学習塾ではない
食事提供:地元食材を使ったおばちゃん手作りカレーライス(栄養計算された、毎回違う食材)



5 見えてきたもの

子ども支援の基盤が出来てきた。
・学童保育ではなく子どもに対する支援をしていく
上での土壌が出来た



6 今後の目指す姿

支障している子どもたちに寄り添い、本来目指すのは、「だんだん食堂」のような居場所づくりにより学習支援・食事提供・悩み相談等が相乗効果となること

⑪ 【なみカフェ】 (松本市) ～信州子どもカフェの事例～

1 実施内容

名称	開催場所	開催日	開催時間
なみカフェ	並柳団地集会所	月4回 (水曜日及び土曜日)	水曜日: 16時～19時 土曜日: 10時～13時
内容	費用	団体名(担当)	電話番号(問い合わせ先)
学習支援・食事・悩み相談など	無料 (大人は任意で募金)	並柳団地町会 町会長 青木 健太	090-9660-1933

2 始めたきっかけ

何処にも居場所を見出せない子どもの存在が気になったこと、様々な出会いがあり共感する仲間がいたこと、バックアップする行政の施策があったこと。

3 実施体制

住民スタッフの協力、松本大学の協力、フードバンク信州の協力、共感する仲間の協力、支援団体とのネットワークがあり、NPO法人ワーカーズコープが現場責任者を担い、居場所の空間をコーディネート。

⑪ 【なみカフェ】 (松本市) ～信州子どもカフェの事例～

4 特徴

食事を共にしたり、褒められたり、怒られたり、失敗したり、楽しんだり、子ども達の記憶に残る多様な体験を通し、生きる力を育む。家庭の文化を取り戻す取り組みとなっている。



5 見えてきたもの

子どもの貧困だけを取り上げるのではなく、地域の子どもの見守る地域の大人の存在が大きな役割を果たす。また、地域外でも様々な人達が関わることで、子ども達の意欲や生きる力に繋がっている。



6 今後の目指す姿

継続することで、引きこもる子ども・若者がいつでも来やすい環境を整えていくこと、関わるスタッフが居場所の意義を認識しつつ、協力者が増えていくことで地域が活性化していくこと。

⑫ 【信州子ども食堂しおじり】 (塩尻市)～信州子どもカフェの事例～

1 実施内容

名称	開催場所	開催日	開催時間
信州子ども食堂しおじり	塩尻市片丘多目的研修センター、えんぱーく他	毎月第3土曜日 (企画開催は不定期)	午前10時～午後2時
内容	費用	団体名(担当)	電話番号(問い合わせ先)
居場所づくり子ども食堂	子ども:無料 大人200円	NPO法人NPOホットライン信州 中南信事業部	090-9357-3143 hotline@kki.biglobe.ne.jp

2 始めたきっかけ

相談事業の事例から、孤立している多くの大人たちが、子ども時代に十分充たされず、自己肯定感を育てられないまま育っていること。知らない人に声をかけられたら逃げろと教えられる社会の中で、子どもだけではなく大人も孤立している。大人にも子どもにも、安心して繋がることのできる「居場所」が地域の中に必要であると感じたことです。

3 実施体制

調理師・保育士・教員OB・大学生・地域のおばさん、おじさんなどのボランティア

⑫ 【信州子ども食堂しおじり】 (塩尻市)～信州子どもカフェの事例～

4 特徴

子ども食堂ひなたぼっこ…大勢で楽しく食べる昼食と地域交流の居場所
夕日食堂…学習サポートと夕食の少人数の子ども食堂
学びサポート&子ども食堂お楽しみクッキング
…子ども達が料理で作る楽しみの場
簡単な工作や、食事作り、読み聞かせなど、自ら体験できる企画と併せ色々な形で実施しています。



5 見えてきたもの

子ども達は、料理でも工作でも、自分で体験しフィードバックを実感できると、本当に生き生きします。
大がかりな仕掛けでなくても、楽しい食事を中心に、心が開かれ、笑顔になる体験機会を数多く作ることが、豊かな心を育む土台になればと願っています。



6 今後の目指す姿

今参加している子ども達が大人になっても、子ども食堂の旗を見て、ご飯を食べに来てくれるような、安心・安全の居場所として地域に定着するよう、地道な活動を長く続けていきたいと思えます。

⑬ 【ばおばおのおうち】 (安曇野市) ～信州こどもカフェの事例～

1 実施内容

名称	開催場所	開催日	開催時間
NPO法人 子育て支援 ばおばお	安曇野市三郷明盛 1363-1	平日 (月曜日～金曜日)	10時～15時30分
内容	費用	団体名(担当)	電話番号(問い合わせ先)
母と子の交流の場 対象:未就園児(保護者同伴)	子ども:無料 正会員 3,000円/年 月会員 500円/月 非会員 300円/回	NPO法人 子育て支援 ばおばお 理事長 小口 茂子	0263-77-1180

2 始めたきっかけ

旧三郷村社協のファミリーサポートセンターの協力会員有志で始めた月一回の0才児サロンです。「赤ちゃん連れで気軽に行ける遊び場所が欲しい」「子育て中のお友達に出会える機会が欲しい」等々の声がたくさんあり、社協のバックアップもあり平成18年NPO法人を設立、以後平日毎日安心して赤ちゃんを遊ばせる場として「ばおばおのおうち」を運営しています。

3 実施体制

自由に遊びに来られる「ばおばおのおうち」は、平日毎日(土日祝日は休館、お盆、年末年始、春休み休館有)10:00～15:30開館。開館中、会員は自由に利用できます。月4～5回開催するサロン(郷土料理講習会やヨガ教室、こちょこちょサロン等)は非会員も参加できます。開館中は常時スタッフが居ますが、必ず保護者の見守りをお願いしています。

⑬ 【ばおばおのおうち】 (安曇野市) ～信州こどもカフェの事例～

4 特徴

乳幼児をもつ保護者に対して、安心して子育てができるような支援を行っています。子ども達が健やかに成長する環境を整備し、子育て世代だけでなく、地域の様々な年代との交流・友達づくりの場・子育てに関する情報提供を行い、母親の子育てに対する不安の解消に取り組んでいます。



5 見えてきたもの

活動開始当初から「子育て支援はお母さん支援」をコンセプトに運営してきたが、子ども自身も沢山のひととふれ合う事で、自信が湧いたり、自分らしさを発揮するのだと感じます。
また母親も(保護者)共感できる友達をつくる事で子育ても安心、自信、楽しみを感じられる様になっていると思います。
情報が氾濫する時代だからこそ、人と人とのふれあいの大切さを痛感しています。



6 今後の目指す姿

子どもの健やかな成長には、親の愛情が最も大切です。
更に子どもは、小さい頃から大勢の色々な年代の方とふれ合う中で、心の広い豊かさを学ぶと思います。
子どもを地域ぐるみで育てるといふ発想を実現していく為の、一端を担えればと思います。

⑭ 【実家の茶の間】 (池田町) ～信州子どもカフェの事例～

1 実施内容

名称	開催場所	開催日	開催時間
実家の茶の間	池田町	毎月1回 土曜日 (8月より実施、実施する週は未定)	10時～16時
内容	費用	団体名(担当)	電話番号(問い合わせ先)
対象:小中学生 食事提供、学習支援 悩み事相談 (食事提供のみ、毎週土曜日実施)	子ども:100円 地域の大人:250円 (予定)	チーム「実家の茶の間」 (代表 曾根原 鈴美)	0261-62-0816 Eメール:tya.jikka@gmail.com

2 始めたきっかけ

- ・子どもから高齢者まで分け隔てなく、気軽に憩える「居場所」が必要と思いカフェを始めた。
- ・高齢者の持つ「わざ」の継承(伝統的な行事、お手玉やけん玉などの遊びや工作)を通して、世代交流を図りたい。

3 実施体制

実施主体:チーム「実家の茶の間」
サポート:地域住民、池田町社協、北アルプス地域子ども応援プラットフォームなど
ボランティア:地域住民4名、北アルプス地域子ども応援プラットフォーム構成員1団体(2名)

⑭ 【実家の茶の間】 (池田町) ～信州子どもカフェの事例～

4 特徴

- << 地域と結びついた子どもの支援 >>
- ・地産地消を柱にした、安心安全な食事提供。
 - ・親子でも参加できる季節行事やイベントの開催。
 - ・高齢者の持つ「わざ」(伝統的な行事、お手玉やけん玉などの遊びや工作)を伝えるなど、大人とともに体験する機会を提供。

5 見えてきたもの

6 今後の目指す姿

- ・子どもから高齢者まで多様な人が気軽に憩えて、世代間交流のできる地域コミュニティカフェを運営する。
- ・元気づくり支援金を活用し、厨房を整備することで、地産地消を柱にした食事提供により、地元「池田町」を発信する場としての役割を持たせる。
- ・北アルプス地域子ども応援プラットフォームの構成員として、ネットワークを活用し、関係機関とも情報共有を図り、連携しながら運営していく。
- ・高齢者の知恵や技術を活用し、高齢者による子ども支援(子どもたちへの安心安全の食事提供や学習支援、悩み相談、見守りなど)を実施する。

